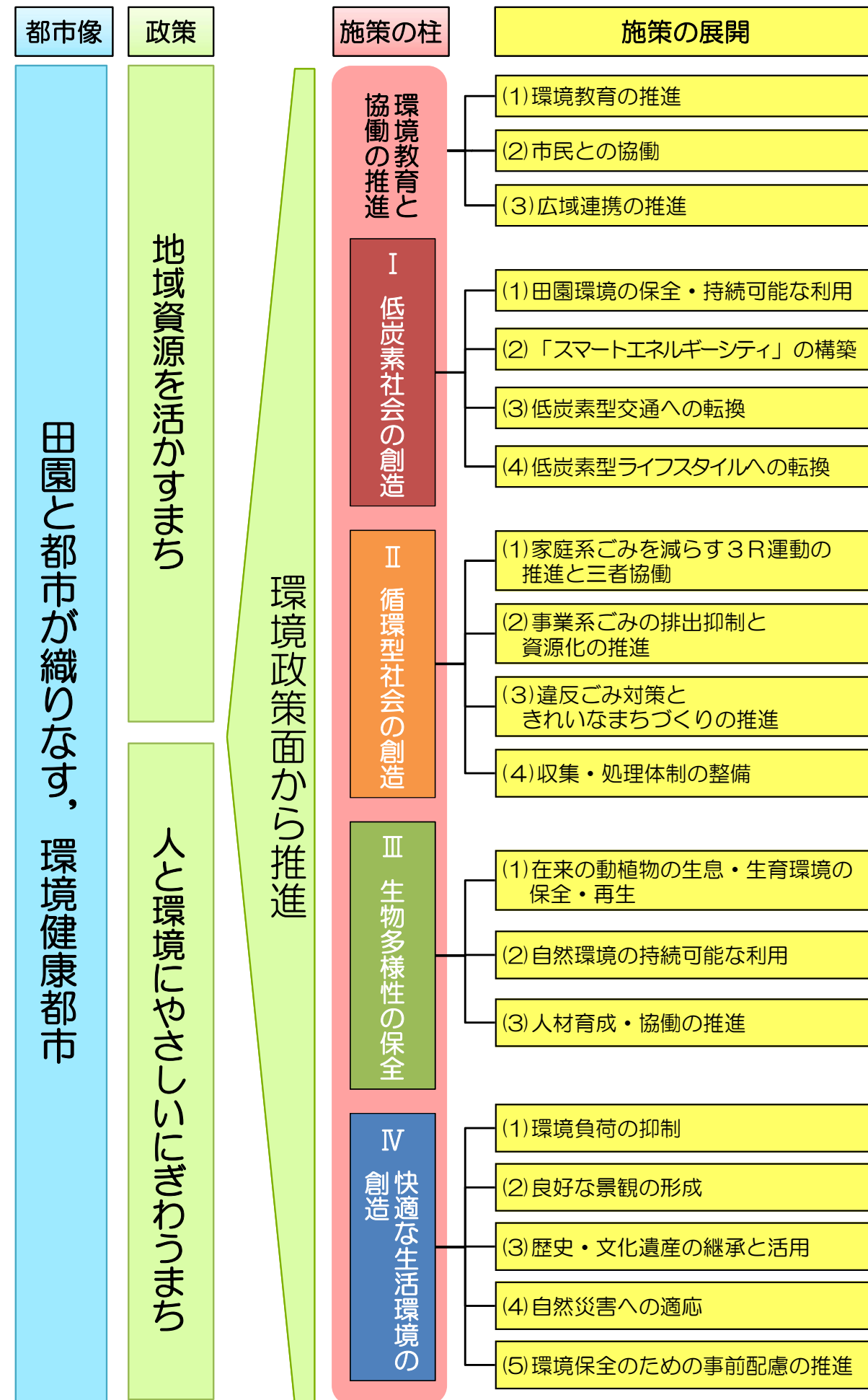


第3次新潟市環境基本計画の進捗状況について

1. 施策の大綱(新潟市の環境 冒頭掲載)



2. 評価指標の達成状況(新潟市の環境 p15,p22,p27,37)

I 低炭素社会の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2018年度)
市域の温室効果ガス排出量	710万t-CO ₂ ※ ₁	635万t-CO ₂ ※ ₂	624万t-CO ₂
もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用	—	民間で活用	活用の実現
太陽光発電システム導入量(10kW未満)	18,000kW	33,305 kW	36,000kW
自動車利用の削減	—	2.6%増加	2.5%削減※ ₃
1世帯あたりの電気使用量(年間)	3,612kWh	—	3,160kWh

※₁ 基準年度である2005年度の排出係数を使用し、当該項目のみ2011年度の排出量を記載

また、排出量算定方法の見直しを実施したため、計画策定時の数値と異なっている。

※₂ 基準年度である2005年度の排出係数を使用し、当該項目のみ2016年度の排出量を記載

※₃ 1日あたりの自動車総トリップ数の2011年度からの削減率

II 循環型社会の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2019年度)
家庭系ごみ量※ ₁ (1人1日あたり)	501g	488g	474g
事業系ごみ排出量※ ₂	84,962t	79,186t	74,500t
リサイクル率※ ₃	27.2%	26.4%	30.9%
最終処分量※ ₄	29,213t	24,261t	21,800t

※₁ 家庭系ごみ量:「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「粗大ごみ」「家庭系直接搬入量(有料分)」の合計

※₂ 側溝汚泥・ボランティア清掃などで排出される公共ごみ、資源化される食品残さを除く

※₃ リサイクル率=資源化量/総排出量(環境省一般廃棄物処理事業実態調査より)

※₄ 資源化又は再利用されるものを除き、最終的に埋め立て処分される廃棄物の量

III 生物多様性の保全	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2022年度)
生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数	現状を維持	現状を維持
特定外来生物※ ₁ の種類	10種	12種	現状より減少
環境保全型農業を実施する農地の割合※ ₂	34.4%	30.4%	50%

※₁ 日本在来の生物の生活をおびやかす外来生物を国が定めたもの

※₂ 主食用米稲作付面積に占める化学合成農薬・化学合成肥料を5割以上削減した栽培面積の割合

IV 快適な生活環境の創造	計画策定時点 (2013年度)	実績 (2018年度)	目標 (2022年度)
生活環境における空気のきれいさ※ ₁ 沿道における空気のきれいさ※ ₂	0.007ppm 0.009ppm	0.005ppm 0.007ppm	現状より低減
水がよりきれいなランク※ ₃ になった河川・湖沼の水域数	—	—1地点	3地点
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体	67団体	70団体
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48%	54%	60%
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合※ ₄	78%※ ₅	86.0%	90%

※₁ 一般環境大気測定局における二酸化窒素濃度

※₂ 自動車排ガス測定局における二酸化窒素濃度

※₃ ランクとは、河川・湖沼の類型(AA, A, B, C, D, E)に相当するようなきれいさとし、項目としてBOD75%値/COD75%値で評価

※₄ 農地、水路、農道等の質的向上を図る共同活動を支援する「資源向上支払交付金」の対象農地の割合

※₅ 当該項目のみ2014年度の数値を記載